
第2次茅野市地域創生総合戦略

令和2年4月
長野県 茅野市

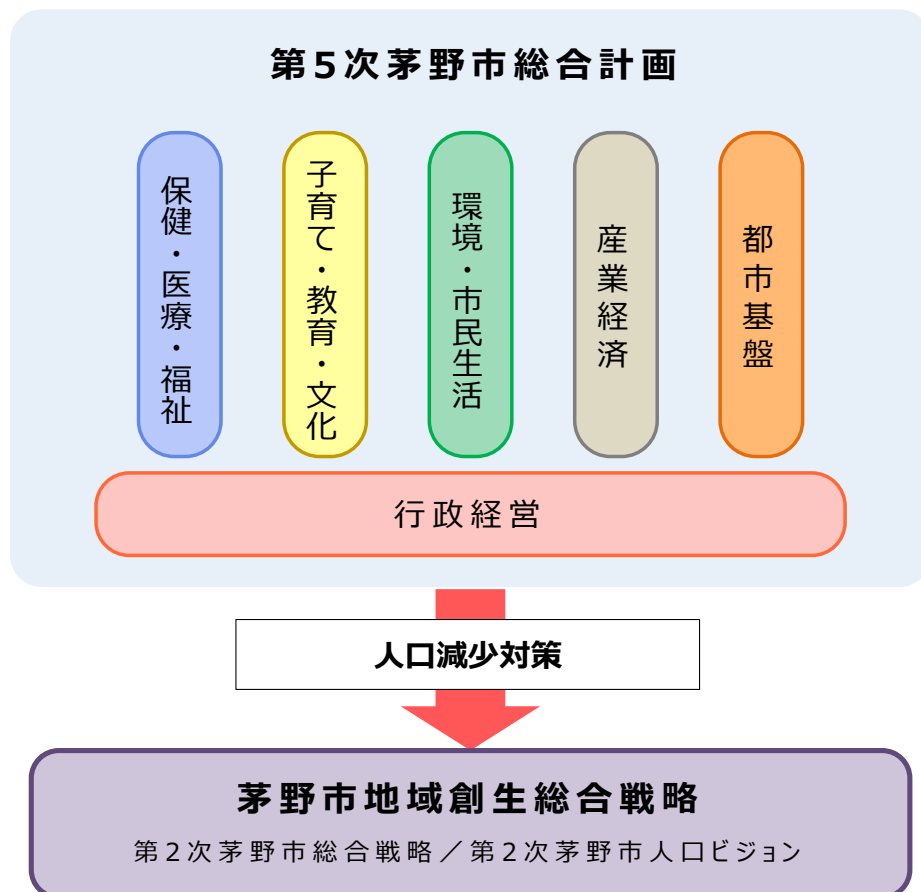
目 次

第 2 次茅野市地域創生総合戦略の位置づけ	- 2 -
基本的な考え方	- 3 -
第 2 次茅野市総合戦略が目指すまちの姿	- 3 -
若者に選ばれるまちのイメージ図	- 4 -
施策展開	- 5 -
テーマ	- 5 -
基本コンセプト	- 5 -
施策体系	- 5 -
基本目標	- 8 -
横断的施策	- 13 -
計画の進行管理	- 14 -

第 2 次茅野市地域創生総合戦略の位置づけ

第 2 次茅野市地域創生総合戦略は、「第 2 次茅野市総合戦略」と「第 2 次茅野市人口ビジョン」により構成され、本市の最上位計画である「第 5 次茅野市総合計画」を基本に、人口減少の克服に特化した、政策横断プロジェクトとして策定します。

第 5 次茅野市総合計画から見た茅野市地域創生総合戦略の位置づけのイメージ



◇ 第 2 次茅野市総合戦略

茅野市人口ビジョンを踏まえ、市が今後 5 年間に取り組む政策目標や施策の基本的方向、具体的な施策をまとめます。計画期間は、令和 2 年度（2020 年度）から令和 6 年度（2024 年度）までとします。

◇ 第 2 次茅野市人口ビジョン

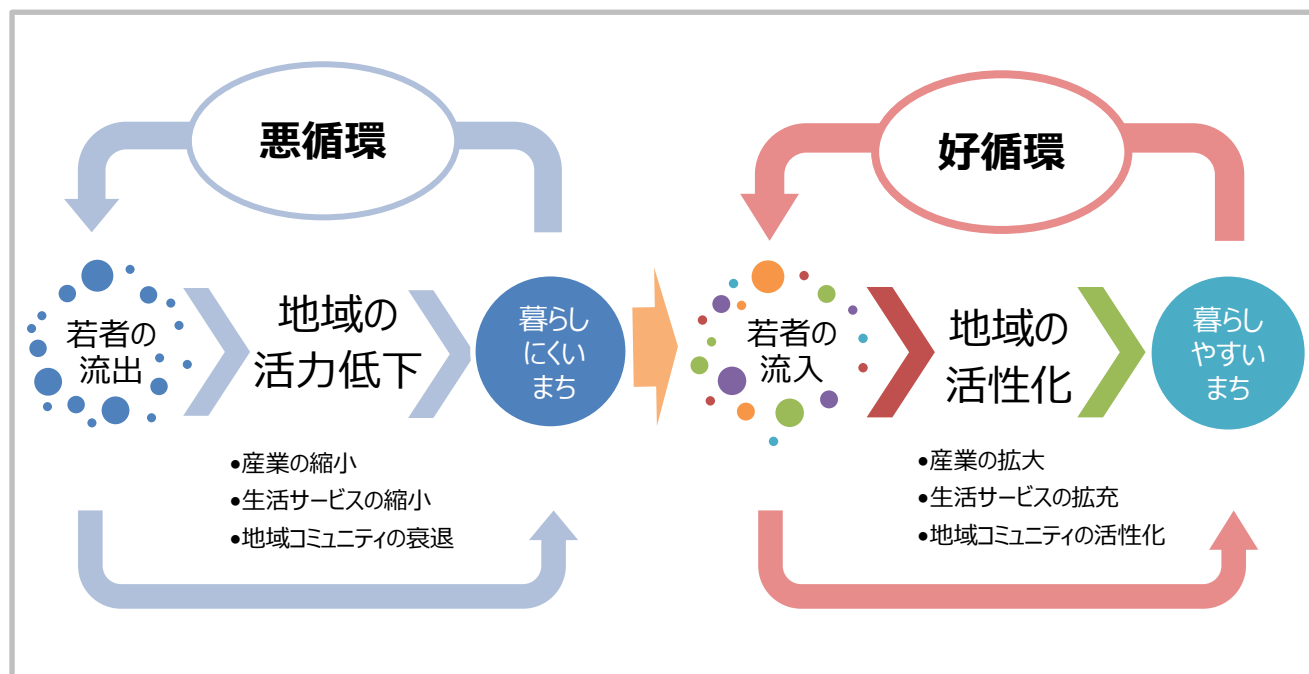
茅野市における人口の現状を分析し、様々な仮定の下での将来人口推計を行い、今後目指すべき将来の方向と人口の将来展望を提示します。計画期間は、第 1 次茅野市地域創生総合戦略における茅野市人口ビジョンを踏まえ、令和 42 年（2060 年）までとします。

基本的な考え方

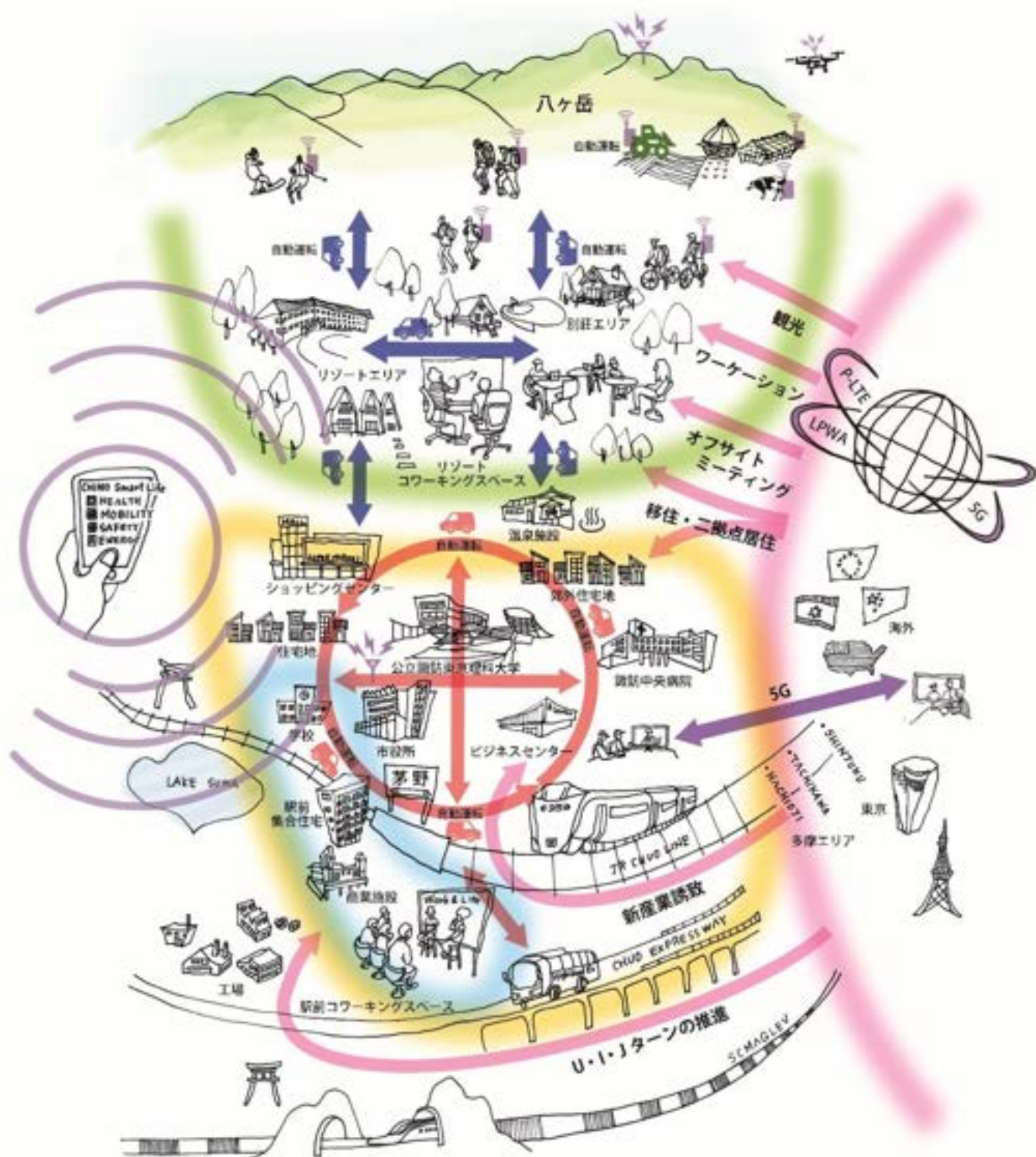
第 2 次茅野市総合戦略が目指すまちの姿

- 若者がいなくなると、企業の人手不足や、スーパーやコンビニエンスストア、チェーン店が撤退するほか、バスや鉄道、タクシー等の公共交通を始めとする生活サービスが縮小し、**生活が不便になります。**
- 一方、地域のコミュニティでは、消防団員や公民館役員、保健補導員のなり手が不足し、**住民の負担も増えていくこと**になります。
- 生活が不便で、住民の負担も多い、**暮らしにくいまち**になると、より暮らしやすいまちを求めて、**若者はますます都市部等へ流出してしまいます。**
- 若者に「**選ばれるまち**」には、**若者が流入し、経済が活性化し、生活サービスが充実し、住民の負担も減ること**で、結果的に子どもからお年寄りまで**全ての市民が暮らしやすいまち**になります。
- 第 2 次茅野市総合戦略では、**全ての市民にとって便利で快適な暮らしやすいまち**となるために、魅力ある仕事づくりや、子育てのしやすい環境づくり、便利で安全なまちづくり等、**若者の移住・定住を促す環境づくり**に取り組むことで、

若者に「**選ばれるまち**」の実現を目指します。



若者に選ばれるまち構想



◆ : 3次交通	● : リゾートアクティビティゾーン(仮)	● : コンパクトシティゾーン(仮)
◆ : 2次交通	● : 茅野市住宅地ゾーン(仮)	● : 市外(東京・世界)
□ : 1次交通		

施策展開

テーマ

若者に「選ばれるまち」の実現

基本コンセプト

茅野市人口ビジョンを踏まえ、**若者が茅野市に流入すること**で、経済が活性化し、生活サービスが充実、住民の負担が減り、結果的に子どもたちからお年寄りまで、**全ての茅野市民が暮らしやすいまち**となることを目指し、新型コロナウイルス感染症により変化する国と地方のあり方を注視しつつ、**若者に「選ばれるまち」を実現**するため、次の考え方にに基づき施策を展開します。

- ・生活を維持するための**仕事**や生活を営む**住まい**の充実。
- ・**生活サービス、医療・福祉**の充実。
- ・**子育て環境、防災対策**の更なる充実。
- ・茅野市の持つ**自然環境**の活用。
- ・持続可能なまちづくりの実現に向けた **SDGs（持続可能な開発目標）** への意識。
- ・**「ポストコロナ」の社会変革への対応**。

施策体系

基本コンセプトにおける考え方を実現するため、**茅野市を知り訪れ、茅野市に通い、茅野市に移り住む**という**人の流れ**を意識し、以下の基本目標を施策として展開するとともに、複数の基本目標にまたがる横断的施策を設定します。

○ 基本目標

基本目標 1	知りたい、訪れたいまちをつくる
基本目標 2	通いたい、帰りたいまちをつくる
基本目標 3	移り住みたい、住み続けたいまちをつくる
基本目標 4	安心して出産・子育てができるまちをつくる
基本目標 5	安心・安全、快適なまちをつくる

○ 横断的施策

- (1) 茅野版 DMO 支援による新たな交流の創造
- (2) コワーキングスペースの活用による新しい働き方の創出
- (3) 防災・見守りへの先端設備活用連携事業の推進による新たな産業の創出
- (4) 多様な学び場の提供による子どもの豊かな生き方の創造
- (5) JR 茅野駅を基点に都市部と地方を人が行き交う環流の創造
- (6) 暮らしやすい未来都市・茅野の構築

若者に「選ばれるまち」となるための施策体系図

若者に「選ばれるまち」の実現

- 数値目標（令和6年） 生産年齢人口比率：55.8%

基本目標 1 知りたい、訪れたいまちをつくる

- 数値目標（令和6年） 市内観光地延利用者数：3,367,000人
シティプロモーションの展開、観光地域づくり、自然環境の活用

基本目標 2 通いたい、帰りたいまちをつくる

- 数値目標（令和6年） 「将来、茅野市に住みたい」と思う15歳から18歳の割合：60%
新たなワークスタイルの場の提供、別荘地周辺の環境整備、郷土愛醸成

基本目標 3 移り住みたい、住み続けたいまちをつくる

- 数値目標（令和6年） 社会増減（転入者数－転出者数）：510人（5年累計）
魅力ある仕事づくり、移住施策・住まいの支援

基本目標 4 安心して出産・子育てができるまちをつくる

- 数値目標（令和6年） 合計特殊出生率：1.7
若い世代の結婚・出産・子育て支援

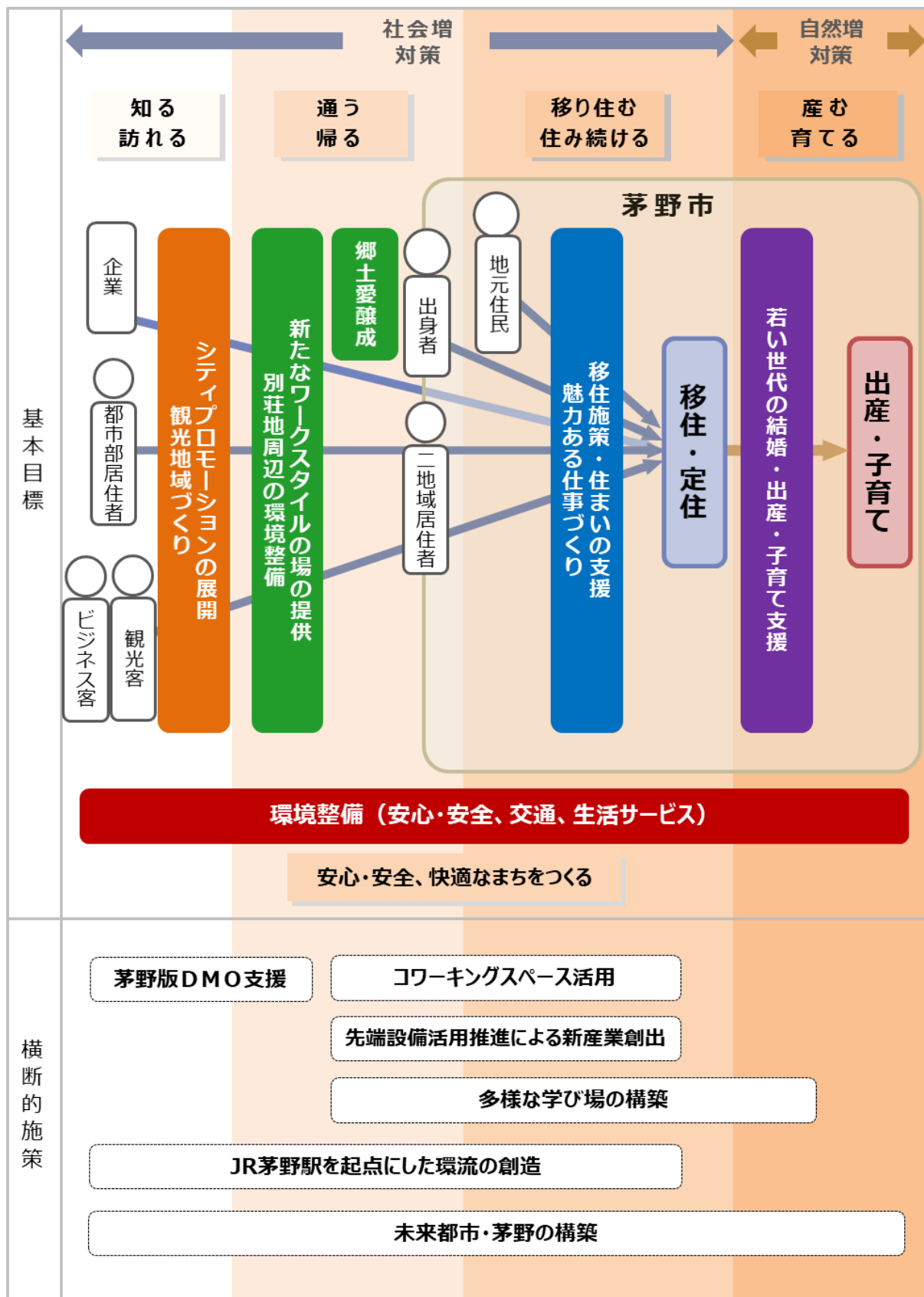
基本目標 5 安心・安全、快適なまちをつくる

- 数値目標（令和6年） 茅野市の行政サービス全般に対し不満を感じている人の割合：0%
生活サービスの充実、医療・福祉の充実、防災対策

横断的施策

- （1）茅野版DMO支援による新たな交流の創造
- （2）コワーキングスペースの活用による新しい働き方の創出
- （3）防災・見守りへの先端設備活用連携事業の推進による新たな産業の創出
- （4）多様な学び場の提供による子どもの豊かな生き方の創造
- （5）JR茅野駅を基点に都市部と地方を人が行き交う環流の創造
- （6）暮らしやすい未来都市・茅野の構築

若者に「選ばれるまち」の実現に向けたフロー

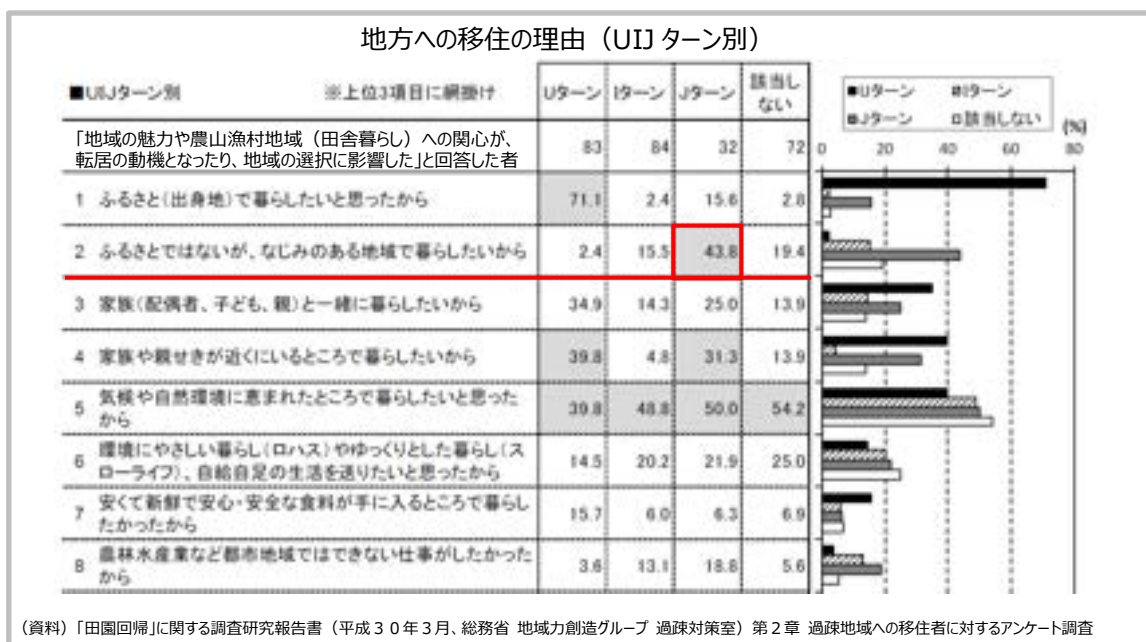


基本目標

基本目標 1

知りたい、訪れたいまちをつくる

- 茅野市の出身ではない若者に移住をしてもらうためには、まず茅野市になじみをもってもらう必要があります。
- その前段階として若者が茅野市を知り、訪れてもらうために、ホームページや SNS を活用したシティプロモーションの展開等による都市部等への情報発信を行うとともに、訪れたい魅力ある観光地域づくりを行い、認知向上と観光客の来訪を目指します。



数値目標

■ 市内観光地延利用者数

目標（令和6年）：3,367,000人

主な重要業績評価指標
（KPI）

- 茅野市観光情報サイトアクセス数
- 蓼科エリア観光地利用者数
- 市内観光消費額

■ 施策パッケージ

茅野市の認知向上に向けた情報発信

- ・ シティプロモーションの展開による茅野市の魅力発信事業
- ・ 茅野市観光情報サイト・SNS 運用による情報発信事業
- ・ 縄文を活用したPR事業
- ・ 縄文ふるさと応援団事業
- ・ 縄文ふるさと大使事業
- ・ フィルムコミッション推進事業

観光の活性化に向けた環境整備

- ・ 蓼科湖周辺整備事業
- ・ 史跡整備事業
- ・ ハケ岳登山道整備事業
- ・ 観光地廃ホテル等対策事業
- ・ 観光地二次交通対策事業
- ・ JR 茅野駅西口駅前広場周辺リニューアル事業

茅野市への来訪に向けた誘客促進

- ・ 地域資源を活かした旅行商品造成、拠点整備事業
- ・ 小津安二郎記念・蓼科高原映画祭支援事業
- ・ 交流人口・関係人口創出事業
- ・ 学習協サマーキャンプ・スノーキャンプ実施事業
- ・ 諏訪地方観光連盟との連携事業
- ・ ビーナスライン沿線市町との連携事業
- ・ 白樺湖活性化協議会との連携事業

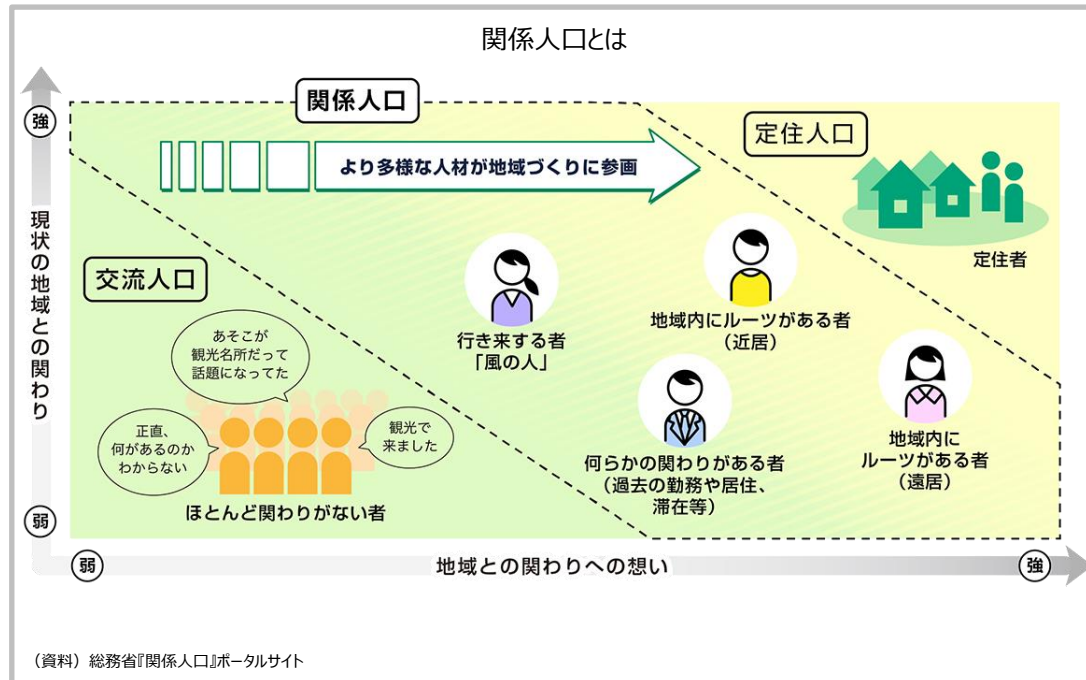
■ 横断的施策

- ・ 茅野版 DMO 支援による新たな交流の創造
- ・ JR 茅野駅を基点に都市部と地方を人が行き交う環流の創造
- ・ 暮らしやすい未来都市・茅野の構築

基本目標 2

通いたい、帰りたいまちをつくる

- 地域に関わりたいという想が強くなり、地域との関わりが深くなることで移住・定住につながります。
- 新たな働く場の提供や、別荘地の環境整備により、観光にきた「交流人口」以上、移住した「定住人口」未満である「関係人口」を増やします。
- また、茅野市出身者や、市外から茅野市へ通勤、通学する人の市内定着を目指し、地域への愛着や誇りを醸成する取り組みを行います。



数値目標

- 「将来、茅野市に住みたい」と思う 15 歳から 18 歳の割合
目標（令和 6 年）：60%

主な重要業績評価指標
(KPI)

- コワーキングスペース売上額
- CHUKO らんどチノチノ利用者数
- 公立諏訪東京理科大学卒業生の市内創業・就業者数

■ 施策パッケージ

関係人口の増加に向けたつながりの創出

- ・ 地域資源を活かした旅行商品造成、拠点整備事業
- ・ コワーキングスペース活用事業
- ・ 別荘開発事業者等との連携推進事業
- ・ 交流人口・関係人口創出事業
- ・ IT 関連企業誘致の推進事業
- ・ ワークेशन・オフサイトミーティングの推進事業
- ・ サテライトオフィス等環境整備支援事業

地域への愛着や誇りの醸成

- ・ シティプロモーションの展開による茅野市の魅力発信事業
- ・ CHUKO らんどチノチノ運営事業
- ・ 生きる力を育む学校づくり事業
- ・ 「縄文科」推進事業
- ・ 読りむ in ちの活動支援事業
- ・ インターンシップ等促進事業
- ・ 防災・見守りへの先端設備活用連携事業

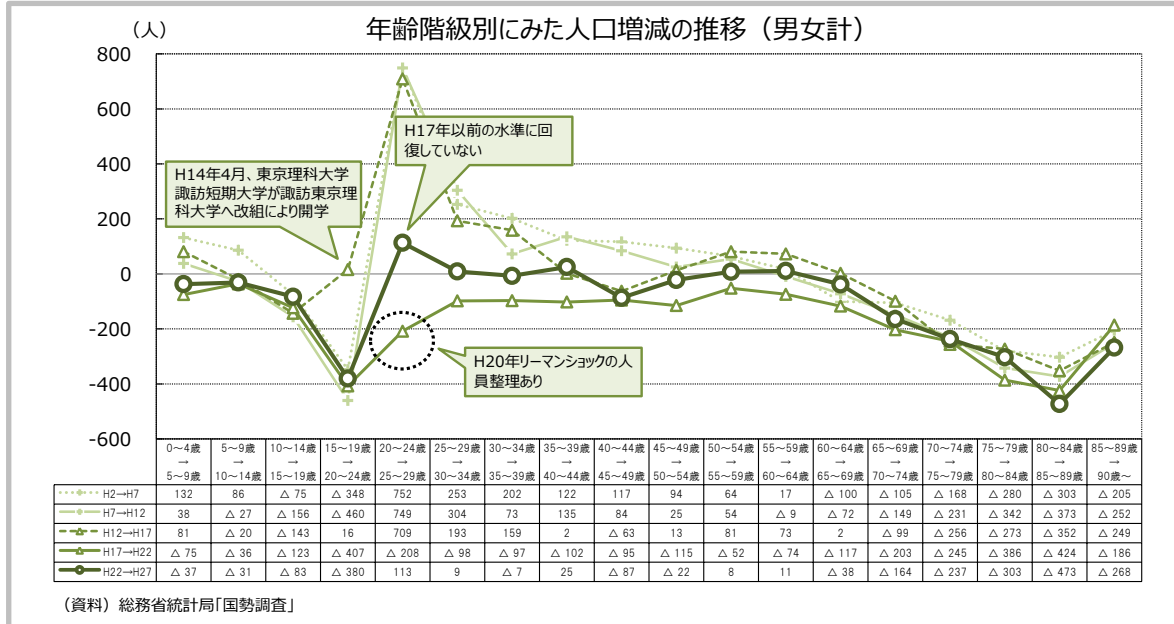
■ 横断的施策

- ・ 茅野版 DMO 支援による新たな交流の創出
- ・ コワーキングスペースの活用による新しい働き方の創出
- ・ 防災・見守りへの先端設備活用連携事業の推進による新たな産業の創出
- ・ 多様な学び場の提供による子どもの豊かな生き方の創出
- ・ JR 茅野駅を基点に都市部と地方を人が行き交う環流の創出
- ・ 暮らしやすい未来都市・茅野の構築

基本目標 3

移り住みたい、住み続けたいまちをつくる

- 男女ともに 10 代後半～20 代は人口減少傾向にあります。これは、主に進学や就職が理由と考えられます。
- 魅力ある雇用をつくることで、市外からも若者を呼び込むとともに、若者が茅野市に住み続けるよう促します。
- 一方で、住まいの支援等を行うことで、移住を検討している人を後押しする取組も併せて行います。



数値目標

■ 社会増減数（転入者数－転出者数）
目標（令和 6 年）：510 人（5 年累計）

主な重要業績評価指標
（KPI）

- 新規創業者数
- 市内事業所就業者数
- 田舎暮らし楽園信州ちの協議会を通じた移住・定住件数

■ 施策パッケージ

魅力ある雇用・産業の創出

- ・ 中小企業振興補助制度事業
- ・ 新技術・新製品研究開発支援事業
- ・ 新商品開発支援事業
- ・ コワーキングスペース活用事業
- ・ 創業スクール事業
- ・ 空き店舗等活用事業
- ・ 茅野・産業振興プラザ支援事業
- ・ 防災・見守りへの先端設備活用連携事業
- ・ モノづくり集積地 SUWA のヒトづくりプロジェクト
- ・ NPO 諏訪圏ものづくり推進機構支援事業

移住・定住情報の発信や住まいの支援

- ・ 田舎暮らし楽園信州ちの協議会の活動支援を通じた情報発信事業
- ・ 諏訪圏移住相談センター支援事業
- ・ 田舎暮らし楽園信州ちの協議会ツアー事業
- ・ 田舎暮らし楽園信州ちの協議会移住体験住宅事業

就労支援と労働環境の整備

- ・ 就業・創業移住支援事業
- ・ 雇用促進事業
- ・ インターンシップ等促進事業
- ・ 就農者支援事業
- ・ 農作物目別アドバイザー制度推進事業
- ・ 製造業等労働環境改善等設備促進事業
- ・ 保育所運営事業
- ・ 学童クラブ運営事業

- ・ サンコーポラス旭ヶ丘の入居促進・活用事業
- ・ 住宅団地販売促進事業
- ・ 住宅リフォーム促進事業

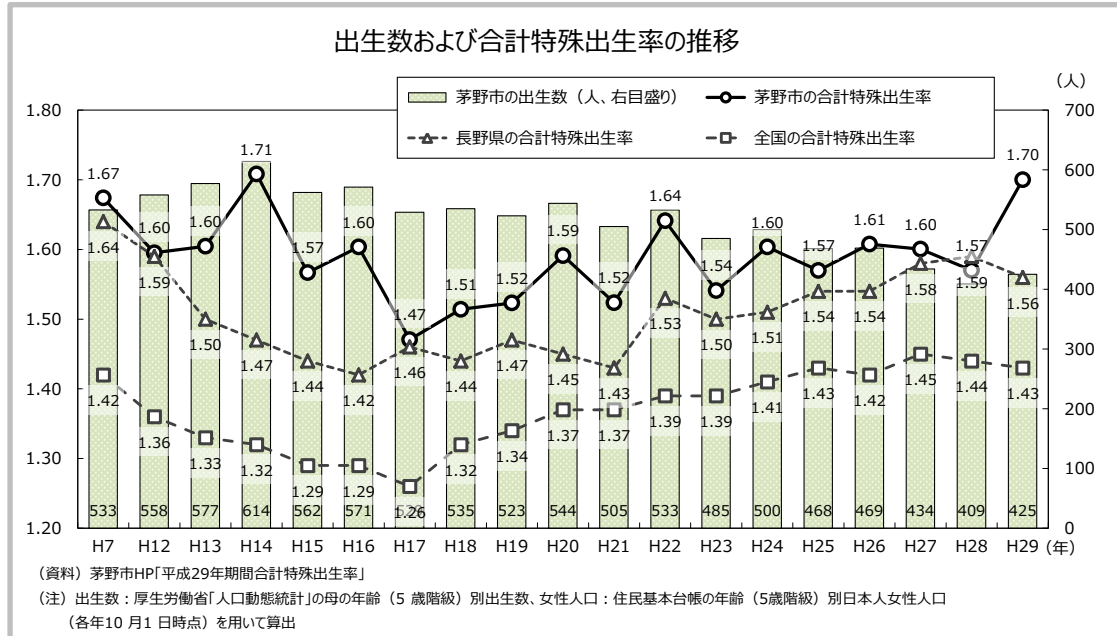
■ 横断的施策

- ・ コワーキングスペースの活用による新しい働き方の創出
- ・ 防災・見守りへの先端設備活用連携事業の推進による新たな産業の創出
- ・ 多様な学び場の提供による子どもの豊かな生き方の創造
- ・ JR 茅野駅を基点に都市部と地方を人が行き交う環流の創造
- ・ 暮らしやすい未来都市・茅野の構築

基本目標 4

安心して出産・子育てができるまちをつくる

- 茅野市の合計特殊出生率は、全国平均や長野県よりも高い傾向にあります。
- 気軽に相談ができる体制の整備や、経済的な支援等により、妊娠、出産、子育てに係る様々なハードルを下げ、より子育てのしやすいまちとなるよう支援を行います。



数値目標

■ 合計特殊出生率
目標（令和6年）：1.7

主な重要業績評価指標
(KPI)

- 人口千人当たりの婚姻件数
- 相談解決の割合
- 育てにくさを感じたとき対処できる親の割合

■ 施策パッケージ

結婚・妊娠・出産の切れ目ない支援

- ・ 出会いの創出事業
- ・ 不妊及び不育症治療助成事業
- ・ パパママ講座事業
- ・ マタニティ相談事業
- ・ 妊婦一般健康診査事業
- ・ 産婦健康診査事業
- ・ 産後ケア事業

子育て世帯への経済的支援

- ・ 多子世帯保育料軽減事業
- ・ 遠距離通学児童・生徒通学支援事業
- ・ 育英事業
- ・ 教育資金利子補給事業
- ・ 医療費助成事業

安心して子育てができる環境の整備

- ・ 赤ちゃん訪問事業
- ・ 乳幼児健診事業
- ・ 赤ちゃん相談事業
- ・ 育児相談事業
- ・ 子ども家庭総合支援拠点事業
- ・ 母子に関する相談及び支援事業
- ・ 発達障害等相談支援事業
- ・ ファミリー・サポート・センター事業
- ・ 子育て・親育ち支援等講座事業
- ・ 0123 広場運営事業
- ・ 地区こども館運営事業
- ・ 保育園を拠点とする地域子育て支援事業
- ・ 読書推進事業
- ・ 幼保小連携教育推進事業
- ・ 小中一貫教育推進事業

■ 横断的施策

- ・ 多様な学び場の提供による子どもの豊かな生き方の創造
- ・ 暮らしやすい未来都市・茅野の構築

基本目標 5

安心・安全、快適なまちをつくる

- 若者から「選ばれるまち」となるためには、「仕事」、「住まい」に加えて、「生活サービス」や「医療・福祉」、「交通」等の日々の暮らしやすさが充実していることも必要です。
- 災害の少ない地域であることも重要視されており、安心・安全なまちづくりを進める必要があります。

地方に移住する際に最も重視した条件（年齢別）



(資料)「田園回帰」に関する調査研究報告書（平成30年3月、総務省 地域力創造グループ 過疎対策室）第2章 過疎地域への移住者に対するアンケート調査

数値目標

■ 茅野市の行政サービス全般に対し不満を感じている人の割合
目標（令和6年）：0%

■ 施策パッケージ

暮らしやすい環境の整備・充足

- ・ 公共交通確保維持改善事業
- ・ JR 茅野駅西口駅前広場周辺リニューアル事業
- ・ 地域ポイント活用事業
- ・ 業務のデジタル化事業

地域で支え合う安心・安全なまちづくり

- ・ 地域共生社会の構築に向けた包括的支援事業
- ・ 住民参加型有償サービス支援事業
- ・ 自主防災組織活動支援事業
- ・ 消防団活動支援事業
- ・ 避難行動要支援者支援事業
- ・ 防災情報システム運用事業
- ・ 森林経営管理事業
- ・ 里山づくり支援事業
- ・ ゼロカーボン推進事業
- ・ エネルギー自立化支援事業
- ・ 公共施設整備事業

■ 横断的施策

- ・ JR 茅野駅を基点に都市部と地方を人が行き交う環流の創造
- ・ 暮らしやすい未来都市・茅野の構築

横断的施策

5つの基本目標の達成に向けて、横断的に取り組む施策は次のとおりです。

(1) 茅野版DMO支援による新たな交流の創造

基本目標
1

基本目標
2

- 茅野市ならではの観光資源を活かした体験交流プログラムの造成や地域との交流拠点の設置等を行うことで、都市部等の若者をはじめとする新たな観光客層が茅野市を**知り、訪れる**ことを目指します。
- 地域住民が体験交流プログラムの担い手となることで、観光客との交流を促し、そのつながりを通して**通いたいまち**となることを目指します。

(2) コワーキングスペースの活用による新しい働き方の創出

基本目標
2

基本目標
3

- 学生・企業・地元住民・別荘利用者等、市内外の様々な人々の交流、協働や、起業・創業・就業を促すことで、**新たな働き方の創出**を目指します。
- コワーキング、テレワーク等の新たなワークスタイルを実現できる環境を整備することで、市外の人が茅野市で働くために**通う**ことを目指します。

(3) 防災・見守りへの先端設備活用連携事業の推進による新たな産業の創出

基本目標
2

基本目標
3

- 公立諏訪東京理科大学を中心として、高度なものづくり技術と最先端のIoT通信技術を融合させ、登山者等の見守り、災害発生予測、鳥獣被害対策、農業の省力化等の地域課題の解決を図り、茅野発の新たな**産業の創出**を目指します。
- 大学生が地域と関わることで、茅野市に**住み続ける**ことを目指します。

(4) 多様な学び場の提供による子どもの豊かな生き方の創造

基本目標
4

基本目標
2

基本目標
3

- 子どもたちの様々な興味・関心を引き出すことができ、また、力を発揮していくきっかけとなる学びの場を提供することで、子どもたちが自らの豊かな生き方を茅野市で見つけ、茅野市に**住み続ける**とともに、茅野市を離れても**郷土を想い**、生きていくことを目指します。
- 個性や得意分野を活かし働くことができるような雇用を創出することで、新たな産業を生み出すとともに、茅野市の子どもが茅野市に**住み続ける**ことを目指します。

(5) JR 茅野駅を基点に都市部と地方を人が行き交う環流の創造

基本目標
5

基本目標
1

基本目標
2

基本目標
3

- 市内のみならず諏訪地域、上伊那地域、さらには首都圏、中京圏までを含めた交通をつなぐ拠点として、またホスピタリティのあふれる茅野市の玄関口として JR 茅野駅を整備することで、観光客等が**訪れ、通い、移り住む**ことを目指します。

(6) 暮らしやすい未来都市・茅野の構築

基本目標
1

基本目標
2

基本目標
3

基本目標
4

基本目標
5

- 未来に目を向け、日々進歩する先端の技術を活用することで、市民目線で**暮らしやすいまちの構築**に向けて思い切った取組を展開します。

高齢者、学生、観光客、別荘利用者等の様々な人が、いつでも行きたい場所に行ける交通システムや、日々生活するだけで健康になれるような予防医療の仕組みの構築等、住んでよかったと誇りに思える暮らしやすいまちを構築するための新たなサービスの展開

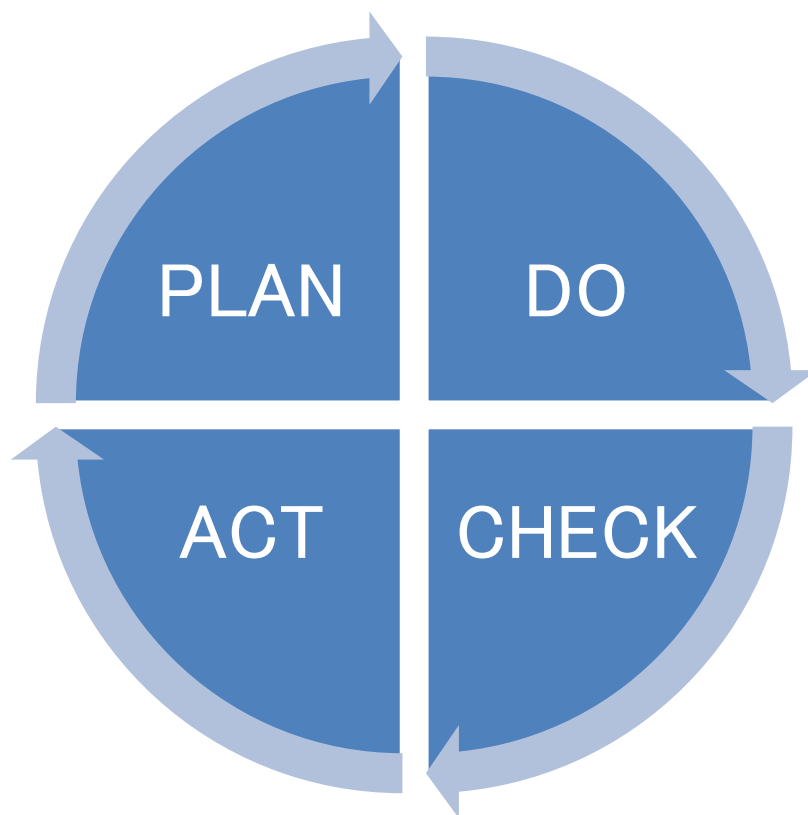
- 新たな技術が地域内に持ち込まれることで、付加価値の高い**新たな産業と雇用の創出**を目指します。

計画の進行管理

(1) 各基本目標の数値目標、重要業績評価指標（KPI）の検証

第2次茅野市総合戦略の実効性を上げていくためには、外部有識者を交え事業効果の検証を客観的に行い、その結果を受け、総合戦略を改善する仕組みを構築することが重要になります。

茅野市では、第5次茅野市総合計画の進行管理に当たり、施策評価や事務事業評価において、各施策、各事務事業に数値目標を設定しています。第2次茅野市総合戦略において設定した数値目標やKPIの評価についても、施策評価や事務事業評価の仕組みを基本に、PDCAサイクルに基づき、効率的な検証を行うものとしています。



(2) 第2次茅野市総合戦略のフォローアップ（有識者の参画）、総合戦略の改訂

第2次茅野市総合戦略の策定に当たっては、広く市民の皆さんに参加をしていただきました。進行管理にあたっても、市民等からなる茅野市総合戦略有識者会議を組織して、総合戦略全体のフォローアップを中心に行い、国の施策や県の総合戦略との整合を図りつつ、総合戦略の見直しを中心に議論していただきます。

上記の検証、有識者の参画を得て行うフォローアップ、議会における報告等を踏まえ、必要に応じて第2次茅野市総合戦略を改訂します。

第 2 次茅野市地域創生総合戦略

令和 2 年 4 月

令和 3 年 4 月 9 日改訂

令和 4 年 4 月 1 日改訂

編集・発行

茅野市 企画部 企画課

〒391-8501 茅野市塚原二丁目 6 番 1 号

電話 0266-72-2101（代表）

URL <https://www.city.chino.lg.jp>